

**立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)**  
**大学院学生研究**  
**2016年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院	法学	研究科	法学政治学	専攻
<b>研究代表者</b> (2017年3月現在のものを記入)	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	法学研究科 法学政治学専攻 博士課程後期課程2年		馬 嘉嘉 印		
<b>指導教員</b>	所属・職名		氏名		
	法学部 准教授		倉田 徹 印		
<b>自然・人文・社会の別</b>	自然	人文	社会	<b>個人・共同の別</b>	個人
<b>研究課題</b>	改革開放後中国における腐敗の深刻化 —1980年代政府機関のビジネス関与を中心に				
<b>研究組織</b> (研究代表者・共同研究者) ※2017年3月現在のものを記入	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	法学研究科 法学政治学専攻 博士課程後期課程2年		馬 嘉嘉		
<b>研究期間</b>	2016 年度				
<b>研究経費</b> (1円単位)	(支出金額) 200,000円 / (採択金額) 200,000円				

**研究の概要** (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

私の研究は、主に改革開放前後の中国腐敗と反腐敗である。2016年度の研究は具体的な一次資料から、中国の腐敗と反腐敗をみることにしている。このため、研究はかなり資料収集に依存して進められている。改革開放(1978年)前後の腐敗というのは、代表的なのが1970年代に起きた建国以来の最大の横領事件—黒竜江省王守信横領事件、1980年代に大規模に発生していた「官倒」(官僚ブローカー)と政府機関のビジネス関与によって生じた腐敗、そして1990年代に深刻化していた税関の密輸腐敗事件などが挙げられる。2016年度の研究は、これらの代表事件・事例の調査から得たもののもとで行われている。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 中国政治 } { 腐敗 } { 反腐敗 }

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

腐敗研究の一番困難なところは確信な資料の獲得である。今回は S F R の支援を受けて頂き、資料収集に大変役立っていた。2016 年 8 月から北京で一か月、2017 年 2 月に香港で二週間で研究調査が行われていって、かなりの成果を得ておる。北京での資料調査は、中国国家図書館、北京大学図書館、人民大学図書館、北京行政学院図書館で行われた。香港での調査は、主に香港中文大学の中国研究サービスセンターで実施されていた。

まず、研究計画で挙げられる中国政府機関のビジネス関与については、今までの先行研究は主に軍隊(人民解放軍)のビジネス関与を中心に研究してきた。例えば、駒形哲哉(1998、2007)、平松茂雄(2000)、王鵬(2005)などが挙げられる。私の今回の調査対象は、軍隊ではなく、1980 年代に有名になっていた「康華公司」である。「康華公司」は、鄧小平の息子である鄧樸方が主導した会社であり、1989 年 10 月に社会の「反腐敗・反官倒」の潮流で徹底的に封じられた。この会社についてはいくつかの資料を獲得している。

また、1970 年代に大騒ぎになっていた横領事件—王守信横領事件については、結構よい資料を得た。1979 年 4 月 23 日に、中国『人民日報』は黒竜江省賓県で起きた一件の横領事件について報道した。この横領事件は、「建国以来最大の横領事件」と言われており、1980 年 2 月に主犯格である王守信(女、当時 58 歳)はハルビンで「横領罪」で処刑された。この事件は、改革開放以前の中国の腐敗を観察する絶好な事例である。中国の腐敗が改革開放以降深刻化してきたと認識している学者は少なくない。それでは、改革開放以前は、どのような腐敗と反腐敗があったのか。改革開放以前の腐敗と反腐敗に関する研究はそもそもすくない(Julia Kwong 1997、Xiaobo Lü 2000、王伝利 2004 などが挙げられる)一方、事例のもとで行われた研究はほとんどない。私は現在この事件について収集した資料のもとで、論文を作成している。論文の主要な問題意識を紹介する。まず、この「建国以来最大の横領事件」はどのような時代背景で如何にして暴露されたのか。腐敗を取り締まる主体や出発点が違っていると、それが持つ意味合いが異なってくるわけである。また、当時このような横領事件の発生した原因をめぐって、異なる見方が出現していた。特に、作家・記者であった劉賓雁のルポ作品が主流の見方を沿わず、この事件を詳細に描いている。彼の作品の視点は当局のと比べてだいぶ違っており、当時国民に衝撃を与えて大騒ぎになっていた。よって、このルポ作品をめぐる攻防は、中央、地方そして民間の間に展開していた。それでは、どのような攻防があったのか。これが「腐敗を取り締まるのは誰の権力なのか」という問題に直結しており、解明する価値が言うまでもなく大きい。この論文は、中国と香港で得た資料のもとで、中国の腐敗と反腐敗に関する先行研究を参照しながら、以上の問題を答えるうえで、改革開放以前の腐敗と反腐敗の特徴もまとめていくことを試みたい。

続いて、香港での資料調査の成果を少し説明していく。中国政治を研究する際に、香港の資料を見逃すと研究の大きい損失になる。香港での調査は、1980 年代中国政府機関のビジネス関与と 1970 年代の王守信横領事件についてそれぞれいくつか資料を発見した(例えば、王守信事件について、1976 年 - 1980 年の黒竜江省の共産党政権の変動や劉賓雁などに関する資料を収集できた)のであるが、意外に 1990 年代の中国沿岸部の税関と関わる密輸の資料を数多く獲得した。

**研究成果の概要 つづき**

調査が進むにつれ、私はすごく感じたのは、中国 90 年代後半のひどい密輸、税関の腐敗そして中央政府が開始した反密輸反腐敗キャンペーンは、この官僚システム（ここでは中国税関）の Lost-control と Re-control だと考えられる。習近平は現在行っている反腐敗運動は、この官僚システムの全体的な Re-control なのではないかとも考えられる。これを研究対象として、中国政治を観察するのはよい着目点だと思われるし、これは私の修士論文の継続の研究にもなる。この思いを持って私は今回香港での調査は中国の税関に重点を置き、特に 1998 年から始めた反密輸反腐敗キャンペーンや、中央政府が税関に対して行った各種の改革、また 90 年代中央-地方関係などについて調査を行ってきた。実際にも、色々な見えそうな資料を得た。特に参考になるだろうと思ったのは、『中国海関』という中国税関の機関誌とほかの 1998 年以降に出版された「税関志」である。これ両方とも、よい一次資料になるわけである。

これらの資料のもとで、研究は順調に進められている。現時点は日本アジア政経学会 2017 年度春季大会での報告(2017 年 6 月・一橋大学)を予定しており、報告の内容は黒竜江省王守信横領事件をめぐる政治的分析である。2016 年度に収集した資料は今後の博士論文の執筆の時に利用しようと思っている。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①雑誌論文：『アジア研究』（日本アジア政経学会機関誌）を予定している。

②図書：現時点は予定なし。

③シンポジウム：現時点は予定なし。

④その他：予定あり。

学会発表：日本アジア政経学会 2017 年度春季大会

(2017 年 6 月・一橋大学)

報告テーマ：1970 年代中国における腐敗と反腐敗

—黒竜江省王守信ら横領事件をめぐって

(China' s Corruption and anti-corruption in the 1970s - A case study from Heilongjiang Province)